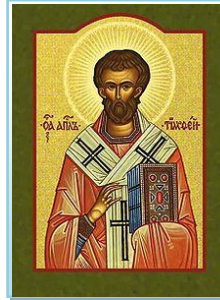


1月26日

聖パウロの協力者

聖テモテ・聖テトス

～パウロのよき協力者～



「テモテのアイコン」

二人は新約聖書に出て来る人物である。テモテは使徒言行録やパウロの手紙、それ以外の書簡に登場し、テトスもパウロの第二コリント書やガラテヤ書に登場する。また二人の名前を冠した手紙も新約聖書に入っている。

テモテは「神をあがめる者」という意味であり、現在のトルコにあたるルステラ出身のパウロの弟子であった。父はギリシア人で、母はユニケというユダヤ人であり、聖書ではパウロの第2回伝道旅行で同労者としてマケドニアに行くと記されている。一説には第1回伝道旅行の時にすでに一度、ルステラで会っていたとも言われる。彼はマケドニアにパウロとともに行った後、その地のフィリピ、テサロニケ、ベレアの諸教会のために尽力した。その後、コリントで再びパウロに協力したという。

また、第3回伝道旅行の際にもパウロを助け、フィリピ、コリント、エフェソを拠点として働いた。パウロのいわば腹心とも言える存在だった。

のちの文献によれば、テモテはエフェソ教会の初代監督(司教)として活躍するが、パウロが殉教したのち、96年頃、ドミティアヌス皇帝の迫害下において、暴徒によって殺害されたという。

次にテトスだが、彼はギリシア人であり、パウロ

によってキリスト者とされた人物である。彼もパウロのよき協力者であった。

彼は前述のようにギリシア人であり、割礼を受けていなかった。当時の初代教会において割礼問題は重大な事柄であったため、パウロはテトスとバルナバを同伴して、シリアのアンティオケアからこの問題の協議のためにエルサレム会議へ向かったとされる。この会議が行われたのは52年頃のことだった。

テトスはパウロの代理者として、おそらく三回コリントへ派遣される。そして当時分裂していたコリント教会の諸問題収拾にむけて努力し、和解に成功し、パウロを喜ばせる。

文献によればテトスはその後、評判の悪かったクレタ島の司教となったという。(Y)

<特禱>

天の父よ、あなたは聖テモテと聖テトスを伝道者、教師としてお召しになり、福音宣教の働きのため聖パウロの協力者とされました。どうかわたしたちも聖霊における聖徒たちとの交わりを保ち、イエスのみ名を証することができるよう、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン